

たっけんカップ振り返り

U-11監督 太田 寛之

1日目の予選リーグ

駿東○2-0

焼津○4-0

富士○5-1

たっけんカップ1日目の予選リーグは他支部に対して、止める、蹴る、運ぶ部分で全員が優れていた。

ただ、試合中に何度か危ない場面もあり、GKの1対1の強さで失点を防いだ場面もあった。状況変化に対していい準備をして対応していれば問題なく試合をする事が出来た。

得点数に関して、決定機会に対してのゴール数は7～8割と高いと思うが、もっと多くの決定機を作り出す為の攻撃の工夫が必要だと思った。雨のためにグラウンドがスリッピーだったが、グラウンド状況も考慮した攻め方、相手の守備に対しての崩し方のバリエーションを準備しておくべきだった。メンバーは、トップ、セカンドと分けての試合となったが、1ピリオド目、2ピリオド目ともにしっかりと戦う事が出来ていた。

2日目決勝トーナメント

沼津○4-0

予選同様、技術、戦術でも相手を圧倒する事が出来ていた。各ポジションの選手が役割を考え相手にサッカーをさせないように、いい準備をしていた。

朝一のゲームだったが、入り方も良く得点を重ねる事が出来た。

清水●0-2

大一番。絶対に負けられない試合で、各ピリオドで十分にサッカーが出来ていたと思う。ゴールへの可能性を何度もつくる事が出来ていて技術でも対抗出来ていた。

敗因として、ゲームの流れを考え、自分たちのリズムでゲームを運ぶ事、失点をしても焦らずに自分たちのサッカーする事が大切だったと考えられる。

また試合に対してのコンディション準備も課題となったので、ゲーム開始時から100%で出来る心と体の準備が必要だと思った。

3位決定戦

藤枝○1-0

予選1位通過チームとの対戦だったが、選手が良く戦い、ゴールへの意識、ボールを奪いに行く意識、攻守の切り替えの面でも優れていた。

東海大会を逃してしまい、消化ゲームとなったが、出場機会の少ない選手も戦い続け、最後の試合を勝ちで終わる事が出来た。

総評

初めてたっけんカップで指揮を取らせていただき、多くの刺激と学ぶことが多い大会でした。

今までサポートとして入ってきた中で感じてきたことを自分が指揮する中で難しさもありましたが、選手の能力、やりやすさなどを考え、マネジメントできたかと思う。東海大会へ出場する力は十分にあったと思うので、試合への準備段階、モチベーションコントロール等、技術的にはほとんどの選手が劣っていなかったなので、心の部分のマネジメントを今後より深めていきたい。

また、選手起用に関して、通常トレーニングでゲームの機会をより多くしてどの選手がどのポジションの適正なのか、各選手の幅をより増やしていくことが、来年のたっけんカップでの優勝に向けての準備になると思う。

大会全体を通して

今回から時之栖での開催となり、グラウンドレベルでのストレスがなくなり、今までより快適な大会となった。また、食事に関しても夕食、朝食と十分な環境の中で過ごすことができた。

1点、審判に関してジャッジに疑問点が残ることが多く、1人制では限界があるのではないかと感じた。静岡に対して、有利なジャッジもあったが、今後スピードが上がっていく中では3人制の方がプレイヤーズファーストの面でもより納得できるのではないかと考えた。